

季刊
10月・11月・12月



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

126

福島県立博物館

発掘ふくしま4

秋の企画展



驚き連発、考古学の旅！

平成29年10月7日(土)～11月26日(日)

平成29年度秋の企画展

発掘ふくしま4

平成29年
10月7日(土)～11月26日(日)

県内の考古学最新情報をいち早く県民に提供するシリーズ企画展「発掘ふくしま」の4回目。ほぼ5年ごとに開催してきましたが、震災等の影響もあり、13年ぶりの開催です。この13年間にも県内の発掘調査は数多く実施され、また、たくさんのお宝の発見も進んで、新たなふくしまの歴史が形作られています。

旧石器時代から江戸時代までを通して、豊富な考古学最新情報で彩り、新しい知見を県民の皆さんに紹介します。

私たちは6年前の地震・津波・原発事故によって、「ふくしま」とは何か? 「ふるさと」とは何か? を改めて問い直しています。ふくしまの地に生きた遠い祖先が残した足跡を辿ることは、福島県民のアイデンティティー(よりどころ)を探る旅ともいえるでしょう。展示する資料はすべて、ふくしまの地中から発掘されたものです。そこには政治的なウソや経済的な虚飾はありません。真実だけが見え隠れしているのです。たくさん並んだ考古資料の中から、みなさんの真実を見つけ出してください。私たちが耳をすませば、土の中からにぎやかな祖先の声が聞こえてきます。

展示構成

- 1 旧石器時代 — 浜通りの旧石器時代人 —
- 2 縄文時代 — ふくしまが列島文化の中心!? 検証・複式炉文化論 —
— 世界初! 縄文人のゲノム解析 —
- 3 弥生時代 — 墓は語る —
- 4 古墳時代 — 新資料が語るふくしま古墳文化の成り立ち —
- 5 古代 — 県内ぐるっと郡家の旅 —
- 6 中世 — 進む中世城館の調査 —
- 7 近世以降 — 城・城下・産業遺跡 —



四穂田古墳出土 短甲 (中島村)
古墳時代



北鹿又出土 ヒサゴ形注口土器 (田村市)
縄文時代



大谷上ノ原遺跡出土 ナイフ形
石器 (檜葉町) 旧石器時代

会場 福島県立博物館企画展示室
観覧時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
観覧料 一般・大学生 500円(20名以上の団体は400円) 高校生以下は無料
休館日 10月10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)
11月6日(月)・13日(月)・20日(月)



滝川製鉄遺跡の製鉄炉跡（富岡町）
幕末～明治時代



稲村御所跡出土 漆製品（須賀川市）
室町時代



小茶円遺跡出土「大同元」「判紀郷」
記銘木簡（いわき市）平安時代

トピック

魅力再発見！——会津大塚山古墳出土品——
5カ年にわたる修復事業を終えた国指定重要文化財を一挙公開

関連行事

■企画展記念講演会

「ふくしまの考古学 この10年」

日時：10月7日（土） 13時30分～15時

講師：福島県考古学会会長 玉川一郎氏

「最新ふくしまの古墳時代研究」

日時：11月3日（金・祝） 13時30分～15時

講師：福島大学行政政策学類教授 菊地芳朗氏

「世界初！核DNA抽出に成功！三貫地貝塚の人骨は語る」

日時：11月23日（木・祝） 13時30分～15時

講師：国立遺伝学研究所教授 斎藤成也氏

■展示解説会

①10月7日（土）、10月22日（日）、11月3日（金・祝）、11月23日（木・祝）

②11月12日（日）

時間：①15時15分～16時15分 ②13時30分～14時30分

講師：当館学芸員

■特別展示解説会

日時：11月18日（土） 13時30分～14時30分

講師：中央大学文学部教授 小林謙一氏



三貫地貝塚出土 人骨（新地町）
縄文時代



会津大塚山古墳出土 三角縁神獸鏡
（会津若松市）古墳時代

主な展示遺跡 **旧石器時代**：大谷上ノ原遺跡（檜葉町）、赤柴遺跡（新地町） **縄文時代**：和台遺跡（福島市）、三貫地貝塚（新地町）、東町遺跡（南相馬市）、馬場前遺跡（檜葉町） **弥生時代**：桜町遺跡（会津若松市）、七十苺遺跡（只見町）、油田遺跡（会津美里町） **古墳時代**：会津大塚山古墳（会津若松市）、四穂田古墳（中島村）、餓鬼堂横穴墓群（いわき市） **古代**：横大道遺跡（南相馬市）、鶴沼B遺跡（会津若松市）、小茶円遺跡（いわき市） **中世**：宮脇遺跡（伊達市）、柏木城跡（北塩原村）、トロミ遺跡（二本松市） **近世**：小峰城跡（白河市）、二本松城跡（二本松市） **近代**：滝川製鉄遺跡（富岡町）

夏の企画展

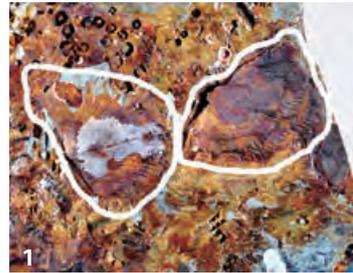
ふくしま 5億年の自然史

会期平成29年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

今年度の夏の企画展「ふくしま 5億年の自然史」は、7月15日(土)に無事開幕しました。特に開幕翌日の日曜日から3日間は連日1000人を超える来館者を迎えることができました。

開幕と同時に大勢の方々にお出でいただいたのは、やはり直前に新聞等で「ふくしま最古の新種化石発見」が報道されたことが大きかったようです。今回、新種と認められたのは、南相馬市鹿島区の合ノ沢層から発見されたデボン紀後期(約3億8千万年～3億6千万年前)の腕足類の仲間で、キルトスピリファー・アイノサウエンシスと命名されました。

今回の発見は、当館の猪瀬学芸員と新潟大学の田沢純一名誉教授たちとの共同研究によるものですが、その中で、郡山市在住の化石コレクターである横田昭彦さんが当館に寄贈して下さいました。標本も重要な役割を果たしています。研究の過程で、猪瀬学芸員が採集した標本と寄贈標本との比較検討を行った際、寄贈標本中にも採集品と同じ新種が含まれていることがわかったのです。来館した方々は、新発見の話題に興味津々で熱心に展示ケースをのぞき



込んでおられました。5億年前にできたふくしま最古の岩石も注目していただいた資料の一つです。その岩石と

は、やはり南相馬市鹿島区付近に分布する松ヶ平変成岩類です。5億年前という年代は、単に岩石を観察してもわかりません。岩石中の鉱物に含まれるある種の放射性同位元素の割合を物理的に計測することで、岩石の年代を推定するのです。来館した方々は、細かい縞模様が見られる緑色片岩や石英片岩などの標本から5億年という悠久の時間を感じ取ろうとするかのように、じっくりと見つめておられました。

いわき・双葉地域に分布する白亜紀の地層からは恐竜の化石が見つかっています。このうちヒロノリュウとオオヒサリュウは、ハドロサウルス類と呼ばれる鳥脚類の仲間に含まれます。見つけた化石は歯や脊椎骨など全体のごく一部分ですが、今回はそれらの実



物展示しました。また、それらと同じハドロサウルスの仲間オサウルスの全身骨格複製も展示

ました。大きな全身骨格はやはり注目を浴び、多くの方々が熱心に見入っておられました。

最後の展示コーナー「現在のふくしま―地震・火山・津波―」に展示した津波堆積物や地震断層を熱心に観察しておられる方も多くいらっしゃいました。津波堆積物は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の際に浜通り地方を襲った津波によるもの、地震断層は、同年4月11日にいわき市西部の田人地区で内陸地震を引き起こした活断層(井戸沢断層)のはぎ取り断面です。



実際に大きくずれ動いた断層の実物を目の前にして、衝撃を受けた様子の方もいらっしやいました。地震や津波が起こることも「現在も生きて活動しているふくしまの自然」の一端なのですが、それによって私たちの生活は大きな被害を受けます。それでは、自然を知り、被害を避け、自然とうまくつきあっていくために何をすれば良いのか、そのきっかけを得るために、展示によって現在のふくしまの自然の姿を伝えていくことも私たち博物館の役割と考えています。

ワークショップ「ふくしま最古の岩石がもらえる!」アンモナイトの名前を当てよう!」にも、たくさんの方にお出でいただきました。クイズ形式でアンモナイトの名前がわかると、皆さんたいへん喜んで下さるとともに、化石の特徴に一つ一つ注目して種類を絞り込んでいく原理を知って得心される方もいらっしやいました。また、アンモナイトの名前を当てた後で、この展覧会の「目玉資料」の一つであるふくしま最古の岩石「松ヶ平変成



岩の小さなかけらをもらって、皆さんたいへん喜んでおられました。



やまくち ひろむ
山口 拡 民俗分野担当

今年度より、民俗分野の一員として福島県立博物館に加わりました、山口拡と申します。

民俗学といってもその範囲は広く、それぞれの学芸員がもつ研究テーマも様々です。今までは、絵馬のような信仰にかかわるもの、竹で編んだカゴやザルといったものについて研究してきました。また、近代以降に故郷を離れた人たちが、新しい土地で生活を作り上げていく時の同郷の結びつきについての研究も行っています。

私自身も、この4月に生まれ育った東京を離れて、会津若松へ引っ越してきました。そんな自己紹介をすると、県内の方にはよく「どうしてわざわざ東京から?」「何もないところだけど大丈夫?」といわれます。もちろん、生まれ育った東京には今でも愛着や魅力を感じますが、福島県にも素敵なおところがたくさんあります。それらはあまりにも身近過ぎて、長く住んでいる方々には気付きにくい場合もあるのかもしれませんが。県内各地で育まれてきた暮らしの歴史や素晴らしさを、皆さんと一緒に再確認し、世代を超えてつないでいけるよう、博物館から発信していきたいと考えています。

また、学習支援班としてイベント開催などに携わる機会も多いため、館内でお目にかかることもあるかもしれません。そんな時は、気軽に声をお掛けいただければ嬉しく思います。

トピックス

新任学芸員紹介



つるまき ゆうた
弦巻 優太 自然分野担当

この度、福島県立博物館に赴任した弦巻優太と申します。県立博物館が誕生したのが、1986年10月。実は私の誕生日も1986年10月。(日にちは違いますが...)博物館と同じ30歳です。きっと何か縁があって赴任してきました。(と自分は思っています。)

私は、これまで8年間中学校の理科教師として子どもたちの教育に携わってきました。地質や化石には興味がありましたが、実際に化石を掘ったり、講義を聴いたりしたことは一度もありませんでした。だからこそ、今回博物館で仕事をさせていただいたことを大変光栄に思っています。早いもので、赴任してから4ヶ月が経ちました。その中で化石、岩石の発掘・調査やワークショップなどに参加して学芸員としての仕事の魅力を知り、ふくしまの地質に関してさらに興味がわきました。企画展の準備にも参加させていただき、とても充実した4ヶ月でした。

福島県立博物館は、貴重な資料が多く展示・保管しており、子どもから大人まで生涯学習において大変魅力的な施設です。しかし、まだその魅力を知らない方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、私は、多くの方が気軽に来館して学べるような「親しみのある」施設を目指していくことを目標としています。そのつなぎ役として力を発揮していければと思っています。今はまだ勉強不足でできることは限られていますが、博物館を利用する方のために研究・研修に励み、専門性を高めていきたいと思っています。博物館でみかけたら気軽に声をかけてください。皆様、これからもよろしくお願いたします。

ふるさととの考古資料7

【榎葉町歴史資料館】移動展、始めました

考古分野学芸員 高橋 満

県内市町村の考古資料を紹介する当館テーマ展「ふるさととの考古資料」シリーズも第7回となりました。7月から来年の5月まで榎葉町教育委員会と共催で同町の遺跡を紹介します。榎葉町歴史資料館所蔵資料を中心に博物館所蔵資料を加え、約140件の考古資料から榎葉町地域の原始・古代の歴史にスポットライトを当てたいと思います。

榎葉町には現在約110か所の遺跡が知られています。発掘調査された遺跡はあまり多くはありませんが、この中で最も著名なのが天神原遺跡です。昭和54年の全面的な調査で、土器棺墓24基、土坑墓48基が発見され、東日本を代表する大規模な弥生時代の墓地であることが判明しました。昭和61年には出土品が国の重要文化財に指定となりました。今回は出土土器と石器、副葬された玉類を展示しています。

この他に、榎葉町だけではなく浜通りの歴史を語る上で欠かせない、各時代の注目すべき遺跡があるので見ていきましょう。

縄文時代の代遺跡と井出上ノ原遺跡は天神原遺跡の北側にある同一台地上の隣接する遺跡です。前者は縄文時代中期の中頃、後者は中期の終わり頃を

中心とする集落跡です。代遺跡

で平成13・14年

度に発掘調査が

行われ、縄文時

代中期の竪穴住

居跡が13軒の他に貯蔵穴・お墓として使われた埋設土器・遺物包含層が見つかっています。注目されるのは遺物包含層で厚く堆積した黒色土から出土した大量の土器です。深鉢と浅鉢が主体で大きさのバラエティーが豊富です。また北陸地方や関東・中部地方の土器の特徴を持つものが含まれ、遠方との交流を物語っています。井出上ノ原遺跡は、中期後葉を中心とする大規模なムラの跡で、複式炉をもつ住居跡が40棟以上発見されています。サメの歯を模した異形石器12点が住居跡からま

まっって出土しているのは特筆されま



榎葉町の縄文土器



合張古墳全景

す。そのままではアクセサリーにはなりませんので、サメの歯やその模造品を保有することに意味があったのかも知れません。この二つのムラの跡は、比較的狭い範囲でムラの規模や中心部を変えながら継続的に居住していたことを示す良好な遺跡です。

古墳時代では合張古墳が注目されます。この古墳は近年の調査で、一辺が15mの方墳であることが判明しました。墳丘は形が崩れ、高さも1・2m程しか残ってなく埋葬施設は見つかりませんでした。周溝から複合口縁壺など多数の土師器が出土し古墳時代前期に位置付けられます。墳丘盛り土の下からは4基の柱穴が見つかりました。古墳構築前の儀式で使われた建物跡である可能性もあります。浜通りの前期古墳の分布は、いわき市四倉地区から浪江町までの間が今まで空白地帯でしたので、この古墳の発見は本県の古墳出

現期の様子を考える上で大変重要です。同じ地区には古墳時代終末期の合張横穴墓群があります。調査された11号横穴墓の羨道部は長さが16mにも及ぶ県内最大級のもので、この場所から器種のバラエティーに富む多量の須恵器が出土しています。墓前で盛んな祭祀が行われたことを示しています。

奈良・平安時代の榎葉町地域は古代磐城郡の「榎葉郷」に当たります。赤粉遺跡と植松遺跡は井出川北岸の台地にある隣接する遺跡です。多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡があり、榎葉郷の中核的なエリアの一つと考えられます。遺跡からは「井手寺」「中内」などの墨書土器が多数出土しています。「井手寺」の墨書は、現在の「井出（いで）」という地名が平安時代から使われていること、集落近隣に寺が建立されていた可能性を示すものとして興味深いものです。出土品の中には、筒型土器と呼ばれる薄手で土師質の土器が多量にあります。筒型土器は塩づくりに用いる土器と考えられることから、このムラの住民が塩づくりに関わったと考えられます。このほか耳皿や緑釉陶器など一般集落とは様相を異にする出土品も注目されます。



墨書土器「井手寺」(赤粉遺跡)

歴史講座

はじめてさんの古文書講座

平成29年6月17日(土)、
7月15日(土)、8月19日(土)

以前より皆さまからご要望を頂いておりました、初心者向けの古文書講座を6月17日、7月15日、8月19日の3回にわたって開催しました。第1回の初めに古文書の読解に必要な辞書の使い方と「古文書に親しむ極意」をお伝えし、早速古文書の解読をスタート。最初のうちは戸惑って手が止まっていた方も、途中から周囲の方と相談しながら読み進めることで、楽しみながら取り組まれていました。

今回の講座では、あえて3回それぞれ違う内容・種類の古文書に挑戦しました。一口に古文書といっても、字のくずし方や言い回しにもいろいろな種類があるという面白さをお伝えできようと思います。

古文書は、読まなくなってしまうとコツやカンを忘れてしまいます。今回講座に参加された

方は、是非これからも読解に挑戦してみてください。古文書を読めるようになると、歴史を学ぶことがさらに楽しくなりますよ。

さて、このイベントレポートを読んで「私も参加すれば良かった」と思った方に朗報です。今回の好評を受けて、県博では次年度も古文書講座の開催を計画中です。参加をご希望の方は、県博の催し物情報を忘れずチェックしてくださいね。



テーマ展予告

檜枝岐村文書の世界

福島県の西南端に位置する檜枝岐村は、2km級の山々に囲まれた山村です。尾瀬の観光や歌舞伎の公演で、とくに話題になることが多いところです。この村の歴史をさかのぼり、江戸時代の村の特色ある姿を「山と水」「道」「暮らし」などのテーマで紹介いたします。

古文書や絵地図などを詳しく見てゆくと、たとえば「特産の小羽板は若松城の普請にも使われた!」「山に白い熊が現れて



「檜枝岐村絵図」(部分)
檜枝岐村教育委員会蔵・福島県歴史資料館寄託

捕まった?」「尾瀬だけでなく村には8つの名所があった」など面白い話題がたくさん見つかります。

檜枝岐村は、明治・大正期に一時的に周辺の村々と組合村になります。大正6年(1917)に再び独立し、現在までつながる村政となっており、今年が100年目に当たります。村政百年を記念して、福島市にある福島県歴史資料館で今春に開催され好評であった展示を、秋の深まる会津の地で、ぜひご覧ください。

会期：平成29年9月23日(土・祝)～12月10日(日)
休館日：毎週月曜 月曜日が祝日の場合は翌日
会場：福島県立博物館常設展(部門展示「歴史美術」)
観覧料：常設展料金でご覧いただけます。
大人・大学生 270円(20名以上の団体 210円)
高校生以下無料
展示：檜枝岐村文書(檜枝岐村教育委員会蔵 福島県歴史資料館寄託)他
主催：福島県立博物館 (公財)福島県文化振興財団
※会期中に、一部展示資料の入れ替えを行う予定です。

企画展

企画展示室
一般・大学生500円、高校生以下無料

発掘ふくしま4

10月7日(土)～11月26日(日)

■記念講演会(申込不要、無料、講堂)

「ふくしまの考古学 この10年」

10月7日(土) 13時30分～15時

講師 福島県考古学会会長 玉川 一郎氏

「最新ふくしまの古墳時代研究」

11月3日(金・祝) 13時30分～15時

講師 福島大学行政政策学類教授 菊地芳朗氏

「世界初!核DNA抽出に成功」

～三貫地貝塚の人骨は語る～

11月23日(木・祝) 13時30分～15時

講師 国立遺伝学研究所教授 斎藤成也氏

■展示解説会(申込不要、要企画展料金、企画展示室)

①10月7日(土)、10月22日(日)、11月3日(金・祝)、11月23日(木・祝)

15時15分～16時15分

②11月12日(日)、※11月18日(土)

13時30分～14時30分

講師 当館学芸員

※11月18日は中央大学文学部教授小林謙一氏

テーマ展

部門展示室
常設展料金

ふるさとの考古資料7

【榎葉町歴史資料館】移動展

7月1日(土)～平成30年5月20日(日)

檜枝岐村文書の世界

9月23日(土・祝)～12月10日(日)

けんばくの宝2017

12月23日(土)～平成30年2月18日(日)

ポイント展

総合・部門展示室
常設展料金

お日市のお札一會津・夏の風物詩1

9月1日(金)～11月22日(水)

戊辰戦争・回顧の足跡

9月2日(土)～10月1日(日)

近代学校の誕生

10月21日(土)～11月24日(金)

火をつかう昔の道具

11月24日(金)～平成30年2月28日(水)

東山発電所「若松に電灯がともった」

10月28日(土)～12月3日(日)

講座・実演他

★は要申込

【館長講座】(申込不要、無料、講堂)

「北のはやり歌」

⑦10月19日(木) ⑧11月16日(木) ⑨12月21日(木)

各13時30分～14時45分

講師 館長 赤坂憲雄

【自然史講座】

★①「野外講座 化石さがしと大断層の観察」

10月7日(土) 8時30分～17時30分

実習地 東白川郡棚倉町・埴町

講師 学芸員 猪瀬弘瑛

★②「実技講座 化石標本をつくらう」

10月8日(日) 13時30分～15時30分

福島県立博物館実習室

講師 学芸員 相田優

※雨天時は翌週に順延

要申込、40名、100円、両日参加

★「野外講座 鶴ヶ城の野鳥」

11月12日(日) 13時30分～15時30分

講師 野鳥研究者 古川裕司氏

要申込、30名、100円、視聴覚室・鶴ヶ城公園

【考古学講座】

「縄文土器の野焼き」300円、子どもの森

10月15日(日) 10時～15時

講師 学芸員 森幸彦

※8月5・6日「縄文土器を作ろう」参加者対象

「ハニワ大王の講談スパー古事記」

⑦10月15日(日) ⑧11月19日(日)

各11時～11時30分、13時30分～14時

講師 学芸員 荒木隆 (申込不要、無料、体験学習室)

「交通路からみた

幕藩体制確立期における丹羽氏の役割」

10月22日(日) 13時30分～15時

講師 学芸員 荒木隆 (申込不要、無料、講堂)

「パワーアップサロンド考古学」

⑦10月28日(土) ⑧11月25日(土)

各13時30分～15時

講師 学芸員 荒木隆

(申込不要、要飲食料金、レストラン)

【歴史講座】(申込不要、無料、講堂)

「史料でよむ戊辰戦争」

②10月21日(土) ③11月18日(土) ④12月16日(土)

各13時30分～15時

講師 ②学芸員 高橋充 ③学芸員 田中伸一

④学芸員 栗原祐斗

【民俗学講座】(申込不要、無料、講堂)

「おもしろ民俗学ゼミナール③

なぜ七・五・三にお祝いをするの?」

11月4日(土) 13時30分～14時30分

講師 学芸員 山口拓

【実技講座】(要申込、20名、無料、実習室)

★「縄文時代の編み物を再現しよう!」

11月11日(土) 10時～15時

講師 バスケットリ作家 本間一恵氏

【ギャラリートーク】(申込不要、無料、エントランスホール)

「ハニワ大王のさわってギャラリー」

⑦10月1日(日) ⑧11月5日(日)

各11時～11時30分、14時～14時30分

講師 学芸員 荒木隆

【読み聞かせ】(申込不要、無料、体験学習室)

「博物館でも読み聞かせ」

⑦10月14日(土) ⑧11月11日(土)

各11時～11時30分、14時～14時30分

講師 読み聞かせグループ

【科学イベント】(申込不要、無料、実習室)

「Spffサイエンス屋台村in会津」

①12月24日(日) 10時30分～15時30分(予定)

ミュージアムイベント

「クリスマスジャズライブ」

12月17日(日) 13時30分～15時

(申込不要、無料、エントランスホール)

友の会イベント

映画上映会(申込不要、無料、講堂)

10月28日(土)

「アマゾン大冒険」 10時20分～

「天地明察」 13時20分～

※当日、整理券を配布します

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始します(異なる場合もありますのでご確認ください)。電話もしくは受付力ウンターでお申込みください。
*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

10月～12月の休館日

10月2日(月)・10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)

11月6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

12月4日(月)・11日(月)・12日(火)・18日(月)・25日(月)

年末年始の休館日

12月28日(木)～1月4日(木)

11月3日(文化の日)は常設展無料

【お問い合わせ先】福島県立博物館
TEL 0242-28-6007
会津若松市城東町1-25
TEL 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986
HP <http://www.general-museum/fks.ed.jp/>
Mail general-museum@fks.ed.jp

